

Title	多国籍企業内部におけるナレッジ移転の成功要因
Sub Title	
Author	穎原, 譲(Ehara, Yuzuru) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2029">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2029</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	80430196	氏名	顛原 譲
(論文題名)					
多国籍企業内部におけるナレッジ移転の成功要因					
(内容の要旨)					
<p>多国籍企業の最大の強みは、世界各地に分散するナレッジやベスト・プラクティスにいち早くアクセスし、国境を超えて移転、共有することである。しかしながら実際の移転を行なう場面では、様々な障害が存在しており、その克服のためにこれまで数多くの研究が行なわれてきた。本研究では、様々な観点から積み重ねられた研究から仮説を導出し、移転を成功に導く重要な要因は何かを明らかにすることをテーマとし、実証研究を行なった。</p> <p>多国籍企業の本社（欧米）と海外子会社（日本）間でのナレッジ移転をモデルとし、16 社 89 事例による実証研究の結果、次のことが明らかになった。</p>					
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 書面や直接面会によるコミュニケーションがとられるほど、ナレッジの移転の成功に正の影響を与える要因となる。</li><li>2. リーダーが移転するナレッジを理解することや、移転仲介者が役割を果たすことは、移転の成功に正の影響を与える。</li><li>3. 社内でナレッジの移転を奨励することは負の影響を与える。</li><li>4. 売上高の大きさは、ナレッジ移転の成否に影響する要因とならない。また従業員数、設立年数の影響については、何もいえない。</li><li>5. 米国企業や製造業であるかどうか、また R&amp;D、IT、マーケティングであるかどうか移転の成否に与える影響については何もいえない。</li></ol>					
<p>今回の研究で明らかになったことは、リーダーに求められる資質・能力や実際の移転手段に関する要因が最も重要で、その企業の属性（産業、規模、国籍、歴史）や業務内容は重要ではないということであった。</p>					